

「しよしやのがくしゅう、たのしいな」

●長野県立松本深志高等学校 小林比出代

小学校に入学した子どもたちは、文字に関する学習を大変楽しみにしている。一方、姿勢や筆記具の持ち方、字形や筆順等、幼児期に特有な書きぶりや書き方が定着してしまうほど、現代の子どもたちは就学前に文字を書く機会が多い。これから新しく始まる学校生活・学習活動の第一歩として、改めて「文字を書くことの学習」のあり方を見つめ直し、子どもたちが「書写の学習っておもしろいね」と笑顔を見せる学習展開を目指したい。『小学生の書写』には、そんな思いが詰まっている。

レディネスの重視 1. 指でなぞる

『しよしがくせいしよしや 一年』では、実際に鉛筆を執って文字を書く学習の前の、レディネスの段階を大切に考えた。その一つが、脳の働きを如実に現す手指、中でも最も巧緻性が高いとされる人差し指を使って、文字の点画要素や学習対象の文字をなぞる活動である。「文字を書くための指」とも称される人差し指を使い、学習のポイントとなる点画

要素をなぞることは、後に同じ要素を筆記具で書く前段階の活動として有用な学習になる。

レディネスの重視 2. 多様な線遊び

文字を書くことへのレディネスを深めるとの観点から、本書では、線遊びを積極的に取り入れている。望ましい姿勢や鉛筆の持ち方について学習を展開した後、平仮名を構成するさまざまな種類の線遊びを設けている。続く平仮名・片仮名・漢字の各学習ページすべてにおいても、その冒頭部で、学習の要点となる用筆を基盤にした線遊びを提示している。どのような用筆が求められているか子どもたちの理解を促せるように、手（筆記具）の動きが連想しやすいイラストも補助的に添えてある。

学習過程の明示

一年生の各学習単元では、学習の流れを自然につかみながら基本的な点画要素に習熟できよう、次の四つの学習段階を設けている。



1年「ひらがなの かきかた①「とめ」」



こばやし ひでよ 長野県立松本深志高等学校教諭。文字を書くことの教育について多角的な研究を試みる。青山杉雨記念賞第4回奨励賞、平成21年度全国大学書写書道教育学会奨励賞受賞。

- ① 学習対象となる用筆に基づく線遊びを行う。
- ② 要点となる用筆を含んだ文字（拡大して示されている）を指でなぞる。
- ③ ①②でのポイントを確認しながら、単体の文字を鉛筆で書く。
- ④ ③での文字を含む単語（関心を抱きやすいよう工夫し類型化してある）を鉛筆で書く。